| 学校番号 | １０１２ |
|---|---|

# 令和８年度　芸能文化科

| 教科 | 芸能文化 | 科目 | 芸能各論 | 単位数 | ２単位 | 年次 | ２年次 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 使用教科書 | なし | | | | | | |
| 副教材等 | なし | | | | | | |

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

漫才が好き、もしくはその歴史や地域文化に興味がある人はもちろん、人前で話をするのが苦手、大きな声が出せない、コミュニケーションが苦手だと感じている人向けの実習です。

2　学習の到達目標

・上方漫才史を中心に漫才について学習することにより、大阪の地域文化への理解を深め、実際に漫才を演じてみて自分らしい創造的な表現を身に付ける。
・他者と協働し、合意形成する力を育む。
・自分の言葉で表現できるようになる。

3　評価の観点及びその趣旨

| 観点 | a:知識・技能 | b:思考・判断・表現 | c:主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|
| 観点の趣旨 | コミュニケーション発声を通じて発声の基礎を学び、人前での発表に慣れる。<br><br>上方漫才に関わる基本的な事項を理解し、知識を身に付ける。 | 自らで考え積極的に表現をすることにより、自分らしい創造的な表現力を引き出し伸ばす。 | ペアやチームとなり表現する実習で積極性やチームワークを育む。 |
| 上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。 | | | |

4　学習の活動

| 学 | 単 | 学習内容 | 単元(題材)の評価規準 | 評価方法 |
|---|---|---|---|---|

| | | | | 知(a) | 思(b) | 主(c) |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | | 1年間の授業の進め方を理解し、自らの学習目標を決めて授業の取り組み方を明確にする。 | a: 創造的な表現活動をするために必要な技術を身につけ活かすことができる。<br>b: 個々の作品の特徴や良さを的確に感じ取ることができ、分析的に評価できる。<br>c: 意欲的、主体的、創造的に表現や鑑賞の活動に取り組んでいる。 | 自己紹介スピーチ(内容) | 自己紹介スピーチ(表現) | 復習ノート<br>実習態度 |
| | | コミュニケーション発声を通じて発声の基礎を学ぶ。<br>対面での会話を繰り返すことにより、より高度なコミュニケーション能力を目指す | a: 創造的な表現活動をするために必要な技術を身につけ活かすことができる。<br>b: 個々の作品の特徴や良さを的確に感じ取ることができ、分析的に評価できる。<br>c: 意欲的、主体的、創造的に表現や鑑賞の活動に取り組んでいる。 | コミュニケーション発声(内容理解) | コミュニケーション発声(表現) | 復習ノート<br>実習態度 |
| 2 | | プロの漫才台本を3～4本演じてみる。そのことか自身の身体の使い方、声の出し方を学ぶ | a: 創造的な表現活動をするために必要な技術を身につけ活かすことができる。<br>b: 個々の作品の特徴や良さを的確に感じ取ることができ、分析的に評価できる。<br>c: 意欲的、主体的、創造的に表現や鑑賞の活動に取り組んでいる。 | 鑑賞記録 | 鑑賞記録 | 復習ノート<br>実習態度 |
| | | DVD 等でプロの漫才鑑賞をし、漫才の歴史を学びながら鑑賞の能力を高める | a: 創造的な表現活動をするために必要な技術を身につけ活かすことができる。<br>b: 個々の作品の特徴や良さを的確に感じ取ることができ、分析的に評価できる。<br>c: 意欲的、主体的、創造的に表現や鑑賞の活動に取り組んでいる。 | 表現技術 | 即興演技 | 復習ノート<br>実習態度 |
| 3 | | 1年間のまとめとして漫才台本を創作し、ペアで発表する。 | a: 創造的な表現活動をするために必要な技術を身につけ活かすことができる。 | 読解能力 | 台本演技 | 復習ノート<br>実習態度 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | b: 個々の作品の特徴や良さを的確に感じ取ることができ、分析的に評価できる。<br>c: 意欲的、主体的、創造的に表現や鑑賞の活動に取り組んでいる。 | 台本内容 | 台 本 創作 | 復習ノート<br>実習態度 |

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度